東京片貝会報

発行所
東京片貝会
中央区日本橋本町2—9
化学工業技術同友会内
電話（279）1470

第十四回懇親会

初夏の須賀神社でひらく

柳昇師の落語で爆笑

第十四回、昭和四十八年度の東京片貝会懇親会は六月十日(日)正午から新宿区四谷の須賀神社で開催した。

つゆの晴れ間を青空ひろい快適な環境のなかで東京を中心に隣接地区の人たちがはせ参じ、片貝からの来賓を加え定刻五時ちかくまで一年ぶりの歓をつくした。

十一時半受付を開始、時間到行がゆきたり十二時を過ぎると会場はほぼ満員の盛況となる。安達市郎さんが手なれた知才のない運び司会をつとめる。

ますいさつに立った安達作さんが、かねての希望である貴の若返り新体制づくりを本年度内にぜひ実現したいと熱請、ついで渡辺左武郎さん（総計事長）が会計、事業報告をおこない一同議なく承認、協議事項についつり、佐藤量八新事長が新役員人事組織など今後の方針をのべて総会議事を終了する。

来賓席では安達基吉さん（片貝町議会々長）が、募集中の片貝小学校百周年記念事業の内容およびその後の募金況を報告し各位一層の協力を熱請し、つぎに金子片貝中学校、樽井小学校長からそれぞれ学校の近況について話ろうなことがあり、山口孝次さん（片貝町議会副々長）が安達協議会長の要旨をさらにふえんし、具体的事項についての希望をのべて式次第をおわる。

これより待望の懇親会の開幕となる。安達基吉さんの音頭で乾杯、静子、安達雪香、安達清宗、安達幸一、安達法治、安達、寛作、石黒信夫、石原ミツ、五十嵐キヨ、芦川とし、内山サカエ、川島真一、吉原ちよ、吉原よしヱ、横山きよ、内野アツ、大矢修一、大矢福次、大内登世、大塚たけ、小川茂雄、小野塚五郎、小野塚茂、小川七キ、岱次、相崎ヨシ、相崎ツヤ、相川、山口国次、山口富次、山口よし、青木信代、安達信郎、同、山崎キイ、山崎由記夫、山田雅子、安達雪香、安達清宗、安達、山田キヨ、山田利雄、吉原周治、吉原ちよ、横山きよ、和田房枝、長谷川ていこ、以上九十三名

当日の収支、次の通り

会費（総会費十二万四千四百円、（一人千三百円、八十八人分）

会計・事業報告

当日の参会者次の通り

（五十音順）

来賓＝金子清（中学校長）樽村敬一（小学校長）安達基吉、山口孝次（片貝町議会副々長）

会員＝相崎勇次、相崎敬治、相崎清、芝五郎、関好子、高橋ヨシ、高橋喜美、高橋みさ、丹治きく、田中敏夫、鶴田リツ、友田勇郎、富取芝子、長谷川イイチ、広井三栄三郎、藤塚吉雄、藤塚勝次、本田政秀、本田勝作、穂刈フサ、星志津子、丸山貫司、丸山惠次、水内修治、美濃村やう、皆川せん、神林徳次、神林徳次、帰山すま、黒崎栄治、黒崎栄治、黒崎和一郎、黒崎せきヱ、黒崎スイ、日下部政子、小宮とく、小宮八重、佐藤量八、佐藤ヤス次、佐藤フミ、品川軍治、芝五郎、関好子、高橋ヨシ、高橋喜美、高橋みさ、丹治きく、田中敏夫、鶴田リツ、友田勇郎、富取芝子、長谷川イイチ、広井三栄三郎、藤塚吉雄、藤塚勝次、本田政秀、本田勝作、穂刈フサ、星志津子、丸山貫司、丸山惠次、水内修治、美濃村やう、皆川せん、

同（年度会費）二万九千八百円

寄付（二千三百円）四万四千二百円

来賓祝儀（四名）一万二千円

合計　二十万四百円

支出合計十五万四千二百七十円

差引残高　四万六千百三十円也

（一般会計へ繰入れ）

総会スナップ風景

謹告＝新年有志懇親会休催の件

恒例の東京片貝会新年有志懇親会は、毎年一月に「国電おかちまち駅」前の青島デパートを会場に開催してきました。交通の便も手伝って約七十名が参加して盛大な新春交歓がおこなわれましたが、最近青島で営業の都合で会場貸しをとりやめることになりました。急き他方面をいろいろと物色しましたが適当な個所がなく遺憾ながら今回は休催の止むなきにいたりました。

以上のしだい紙上をかり、おわびかたがたご報告申しあげます。

東京片貝会緊急役員会

例年一月開催の新年宴会は、会事務所で左記の諸氏が参加して開場のおかち町「吉田」が使用不能かれた。

にならったので、緊急役員会を一月十四日(月)十一時より日本橋のれそれさがした適当な会場が見当らないため、今回は一応見送り想親睦会を早めて三月下旬に開催すること、新年宴会中止の件を会員に報告すること、会報十二号を総会内状と同時発行するよう企画すること、その他総会開催の準備、運営に関する役員、世話人の分担などについて協議、年尊を共して午後一時散会した。当日の出席者次の通り、（順不同）丸山市郎、安達雅信、渡辺左武郎、長谷川イイチ、佐藤量八、安達、谷川（事務担当）以上七名。

会員各位にお願い

最近、街角標示板による町名整理と、転居先の通知がありませんため、ご案内状発送に配達上に支えがあり困っております。変更のおり早速ご通知願います。なお何度のことながら会費未納のお方は、ご面倒でも同封振替用紙ご利用の上郵便局へお払い込みください。なお第十一回総会の決議により年度会費を左の通り改正しましたからご了承願います。　係より

会費（一ヵ年分）金三百円也

武見太郎先生聞書

……大正時代のことども……

つぎのはなしは昨秋はじめ港区元麻布三丁目の武見邸へ問ったおり、書斎で武見博士が母堂はつさんを中心に、往年の在京片貝グループの人たちの動静を語られたその聞書のあらましである。

（あたらりゃさん）

TY明治のおわりから大正時代（在の芸術大学）の裏側の通りに当たる。

私の家は野桜木町にあった。そこは野公園の一角、帝国図書館小学校同級である島峰徹（元東京東京音楽学校、東京美術学校（現（歯科専門学校長）、大刀川又一郎（駅社々長）さんなど、そのほか（カグラ坂）の石屋邸に使い行かた片貝の縁故の人たちが訪れては帰かに往来していた。日本アルピニストの草分けで知られた早稲八学ひげの子爵が気軽にあられれきらさんが登山家で上京の途次よって「まあまあ上がれ」と歓待招かれて、子爵は私に「初対面の地が分ったので、石黒子爵が亡妻の墓参の帰りはきまって見えられた。そのおり母が子爵の好物で手造りしてご馳走すると宝最をうって賞味された。

それは私が まだ小学校の5—6年生のときであった。カスリの着ドがたたっていたのを、いまでも懐しく覚えている。

母が割りで社交上手であったせいか、いつも私の家は片貝のムーの写真につうった会部の人びとの四分の三はすでに鬼籍そのところをかえた故人となってしまったようである。

東京片貝会は一説によるとロート速の集りだといわれているから、大方の会員はこの写真をおもして懐しい回想にふけられたらよかろう。たしかに当時の会費は五〇銭でアルコール抜きなら豚かに興じたものであった。期日はお盆休みの八月十五日であったとおもう。（写真の中列右から四人目ときの浄照寺院主の小林一道さんである）

思い出のアルバムから

この記念写真は今から四十六年当年四十五才ころの人たちにとり前のものである。会場は中区京では、今文無縁のアルバムに有際（大根河岸）にあった会家倶が、そのころ常顔の人たちもはやくも遺歴を過ぎてよきちゃさん。

和田さん主人

藍綬褒章受賞

四の千出身の和田力子さん（大正十二年巻）のご主人、和田鍵次郎氏（六十六才東京）は、昨年十一月（文化の日）に藍綬褒章を受けられた。

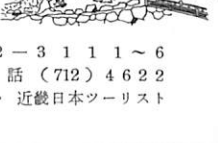
東京築地市場卸共同組合、六大都市魚市場卸共同組合の各理事長などの要職にあった。多年水産業界に対する功績が認められたもので、当日内閣の功ひとしおの夫人も同伴で、宮中八参内、栄ある受賞式に参列された。

浦部武夫氏

浦部しげさんの夫君で元東京都議会副議長であった浦部武夫さんが一月二十五日、赤坂区五丁目の護国寺で三十一日午後一時から告別式が行なわれた。浦部氏は都議員として自動車交通関係、料飲組合などに活躍あっただけに各方面から多くの花輪がおくられ、参列者は多彩の顔ぶれであった。本会からは安達会長代行が香華を手むけた。

鮨種専門
株式会社　富春商店
売場　東京都中央卸売市場内(2023)
電話　直通(541)9138
福井カツ

Tea Room
まるやま
東京都港区赤坂3—20—1
電話　東京(583)2303
地下鉄赤坂見付駅下車3分

奥湯河原温泉
政府登録（登旅210号）国際観光旅館
仙境　野天風呂


お申込は
電話　0465—62—3111～6
直営東京案内所　電話（712）4622
日本交通公社・近畿日本ツーリスト
小田急各案内所

片貝小学校(創立)百周年

記念式典盛大に挙行

児童の器楽演奏で幕

母校の創立百周年を祝賀する記念式典は、昭和四十八年十月十日午前十時から学校屋内運動場を会場にとこれまでかなかに晴天に幸いにつつ高原村村長、永年勤続職員、村議会議員、来賓、顧問、町内委員、鈴木同会長のあいさつで開会、君が代の斉唱のあと浅田副会長の事業経過報告、ついで佐藤佐治会長の挨拶の後、植村小学校長、会長から記念事業目録が贈呈される。このあと小学校長の開辞がこなわれ祝辞にうつる。佐藤半谷市長、同市会議長、同教育委員長、安達吉副会長、ついで金澤貞臣副会長など各祝辞がのべられ同氏から第一回卒業生である武見はるさんの遺影をしのび武見太郎先生(百太郎師会々長)に花束四百五十名余を前列中心に在学童四百五十名余を前列中心に職員、創記念会委員、歴代校長、旧職員、寄付功労者、PTA役員、来賓、顧問、町内委員、鈴木同会長のあいさつで開会、君が代の斉唱のあと浅田副会長の事業経過報告、ついで佐藤佐治会長の挨拶の後、植村小学校長、会長から記念事業目録が贈呈される。このあと小学校長の開辞がこなわれ祝辞にうつる。佐藤半谷市長、同市会議長、同教育委員長、安達吉副会長、ついで金澤貞臣副会長など各祝辞がのべられ同氏から第一回卒業生である武見はるさんの遺影をしのび武見太郎先生(百太郎師会々長)に花束

おこなわれ、一同校歌を合唱、新会長のあいさつで式次第をおわり、さいごに小学校童の器楽メンバーによる合奏があり十一時半百年の歴史をことほぐ感銘のうちに意義ある記念式典を閉幕した。

このあと祝賀式場の隣小祭の間、一同は教室で展示された児童作品などを見学する。十二時より祝賀宴会が盛大にひらかれ、祝杯をあげ、歓笑のようこびをわかち一時半すぎ散会した。

記念神除幕式

この日、記念式典式にさきがけて九時半より小学校正門で同(左側)に設けられた創立百周年を記念する石の除幕式が食はじめ関係者諸氏が参列して翻開けひるなかで児童の手により祝幕のひもがとられ拍手のうちに除幕がおこなわれた。この碑は黒御影石で重厚な方形でつくられ表面には片貝小学校創立百周年記念の文字が深く印刷されてある。

町有志との懇親会

鑑屋と東京片貝会との懇親会が記念式典のあと午後三時から寺町の説教所(厨房場で開かれ、地元から新鮮民謡社長、安達基吉副議会長、東京片貝会から安達竜作、丸山貴司ほか大正天年の同級生、吉原源吉さん夫妻など約四十名ばかりが参席したが、一同きのことを賞味しながら酒杯をくみかわし懇親のひとときを過し五時過ぎ散会した。

小学校プール完成

これまで小学校の児童は、中学校のプールを同使用させられていたが、このたびの小学校百周年を記念して独立のプールが完成した。幅十三米(五コース)二十五米の本格的のプールである。費用の大部分は市の予算から、不足分は町の負担によったという。総工費二千二十万円、昨年十月二十一日にプール開きが行われた。

昭和四十八年度収支決算報告

自昭和四十八年一月　至昭和四十八年十二月

収入の部	
繰越金(前年度繰越金)	二二、五六六円
会費(総会その他を除く)	三〇、八九〇〃
寄付金(同右)	二二、四〇〇〃
広告料(会報第十一号分)	一九、〇〇〇〃
繰入金(総会・新年宴会残金)	六二、五三五〃
利子(銀行預金利息)	一、三六五〃
合計	一五七、七五六円
支出の部	
通信費(会報発送その他)	二一、五四五円
印刷費(会報印刷費)	三一、四七〇〃
同　(その他プリント)	一三、六〇〇〃
事業費(片貝関係)	三七、一二〇〃
同　(東京片貝会関係)	三四、五二五〃
事務費(事務所費、事務係手当、交通費、一般事務費、編集費)	三三、一〇〇五円
合計	一七一、三六五円
差引足金	一三、六〇九円
外に別途積立金	五四、〇〇〇円

差引不足分は別途積立金より支出

別途積立金残高(六年度へ繰越)四〇〇、三九一円

右の通り収支決算報告致します

昭和四十九年一月

東京片貝会　会計委員

郷土だより

完工近い　老人憩いの家

中学校舎の南側に

中学校今舎の南に、老人憩いの家が、三月下旬に完成される。敷地五百坪の中に、平家木造建約百坪の広さである。施設は大広間、小座敷、浴室などとなっている。お年寄りの方々は、四月の開設を今から楽しみにしておられるという。

佐藤さんが勲六等

東京片貝会にいつも出席されている佐藤佐治氏は、昨春自治功労者として、勲六等単光旭日章を受けられたので、その祝賀会が盛大に挙行された。(八月五日)

三尺玉大筒を新調

九月になると心がはずむのは年中行事の秋祭りである。

昨年は何年ぶりかで、三尺玉が二発も打揚げられた。このため鉄製の大筒が新調されたので、そのおはらい式があった。式後は賑かに町内を巡って、一般に公開された。

中学のグランド完成

片貝中学校のグランドは、町民の運動場としても利用される目的で、工事が進められていたが、このたび、周三百米の規模で、ようやくできあがった。(九月十四日)

ダイヤル式にかわる

片貝の電話がダイヤル式に改められ、小千谷局番に組み入れられた。これで電話への連絡も、大変便利になった。

加入数は一台を越える電話さえ視察が行われた。

小千谷局番は(0258)88)

第二回教育感謝祭

遊山台に記念碑

第二回教育感謝祭が開寺本堂で行われた。参列者約六十名。

当日は浅田太郎氏から、墨の拓本について記念講演があり、有意義な催しであった。(十二月二十二日)

なお、これに先立って、文化の日には、仲使山の遊山台に記念碑が建てられた。「米関学園先生の霊園」とある。

これは小学校百周年記念事業の一環として建立された。

新装の片貝駐在所

小千谷警察署片貝駐在所が改築され、その竣工式が四十八年十二月二十四日に関係者列席して挙行されておこなわれた。

メキシコより

堀誠治氏が帰国

二の町出身の堀誠治氏(ときわ

関東大震災の起った年に産声を上げ、昭和四十四年にメキシコへ渡り、歯科医を開業、慶応大卒、佐藤正雄氏が主催して現在でも活躍しておられる。

四十年振りで、昨年四月に帰国された。片貝で暮らの後、四月十五日に貴されたので、同級の藤本郎、佐藤正雄氏が主催して、メキシコ市の日系有力者として神田の学士会館で歓迎会が催された。

東京片貝会からは会長代理として佐藤貴人氏が出席した。

十二同志会の動き

——大正十二年卒——

関東大震災の起った年に産声を上げ、昭和四十四年に卒業したので、十二同志会と呼んでいる。

いま町内に約六十名、東京近辺に約二十名おり、この人達が中心になって活動している。

三年前、故郷で還暦祝いを盛大にやった所、これを幹機として、毎年秋に一泊旅行をもっている。

水上温泉、常磐ハワイ(福島)、銀山湖と手でに三回出かけたが、いつも多数の参加者があり、みんなで楽しみにしている。本年は赤倉温泉の予定だが、

東京支部でも、毎年鶴岡会をもっているし、伊豆、箱根方面にも何度か旅行に出かけている。こんなにまとまりのよいのは、片貝に年をとると、友情はいっそう深いものがあるようだ。

東京支部でも、毎年鶴岡会をもっているし、伊豆、箱根方面にも何度か旅行に出かけている。こんなにまとまりのよいのは、片貝に世話のよい中心になる人がおり、また、東京にも故郷と連絡をとって、何かと面倒を見てくれる人が居るためである。

片々語

拙稿はまずくなった。人生も事業も国際親善から考えることが大切である。

◇　◇　◇

それにしても片貝はどうであろうか、物質生活は豊になったが、やれ豪がらだとか、金持ちだとかいう不平等感覚がさかん。

◇　◇　◇

オレガオレガの自意識、自己顕示ムードが花ざかり、いつになったら長岡共同社会が生れるとう。

提言

あなたにも老いがやって来ます。

老いは誰の日突然やって来るのでは無い。私達は生れた時から老いの道を歩んでいるのです。若い結婚時代で元気なあなたが、知らず知らずの間に自然と老人になるのです。

老後の生き方は若い時からの課題

老人は自分の将来の姿を御存知だったのである。あなたが如何にたのしい青春期を送り働き甲斐のある年期を過したとしても、その老年期が暗く悲しい落日であれば、あなたの人生は決して幸福とは申されません。これに反したとえ青春期苦しく、また壮年期は仕事に追いまくられても、老年期の人生の夕日が光り輝くおだやかなれば、あなたは真に幸福の人生となるでしょう。

社会のすべての老人に労りと尊敬を

社会に貢献して来た老人達は嘆い家庭愛で包んで上げましょう。お年寄りは経済的なものより精神的なものたいわり欲しいのです。孫達が祖父母に示す尊厳や行つは良かれ悪しかれ周囲の心情が反映しているのです。若い頃(家付・嫁付・パパ抜き)を望み叫んだあなたにやがては先祖で成長して来る子供達が「パパ抜き」を望む事になるでしょう。お年寄りに対して労りの心がすなわちあなたの老後を示せにするのです。

白い髪、老けた顔、抜けた歯、曲がった腰、眼のよった皮膚と前、丸く成った背中と后目皆月毎年知らず知らずのうちにあなたに忍びよって来るのが将来のあなたのうつしみなのです。この現実をしっかりと見つめれば必ずやお年寄りへの思いやりと労りの念が湧いて来るでしょう。(安達市郎投稿)

日立電動工具ストール店
各種木工用電動具
大工道具・建築金物
高級刃物・合鍵複製
井ゲタヤ商店
小林敬司
東京都江東区北砂町4丁目40—9
電話東京(644)2562

自動車・電気機械
各種精密ねじ製作販売
株式会社 安達螺子製作所
代表取締役 安達宗吾
東京都港区三田1丁目九番13号
電話東京 451—1604

活魚とふぐ
大小ご宴会
和田兼
東横線綱島駅前(協和銀行前)
電話(045)531—2375
自宅 杉並区和田3丁目1の24
電話(315)9090 和田力子